

専門研修プログラム名	広島大学病院連携施設 精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	広島大学病院	
プログラム統括責任者	岡田 剛	

専門研修プログラムの概要	<p>広島大学精神神経医科学教室は開設以来75年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医療・精神医学の発展に大きな功績を残し、これまでに400名以上の精神科医を輩出してきた。教室の特徴として、大学病院を核として県内の総合病院精神科、精神科専門病院などの医療機関のみならず、精神保健福祉センター、こども家庭センターなどの行政機関までも有機的につながるネットワーク（広島精神医療ネットワーク）を構築しており、臨床面、教育面、研究面において強い互恵関係にある。そのため、初期研修においては効率的に幅広い臨床経験を積むことができる。</p>	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>具体的には、1年目は広島大学病院で研修を行い、精神医学・医療の基本をじっくりと習得する。総合病院精神科においては、小児から老年期精神障害、器質性から心因性といった多様な症例を数多く診療する。精神科専門病院においては、救急・地域医療、依存症も含めた幅広い診療を経験する。また、各専攻医の関心と病院の特徴が合致する研修も選択可能である。これらの経験を通じて、精神科ジェネラリストとしての実力を向上させるだけでなく、確実に専門医獲得が可能となり、更に高度な専門性の獲得に繋がる研修となる。</p>	
専攻医の到達目標	<p>修得すべき知識・技能・態度など</p>	<p>専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。</p>
	<p>各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得</p>	<p>精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析的な精神療法、精神力動療法のいずれかのカンファレンス、セミナーに参加する。また、児童・思春期精神障害の診断・治療を経験する。院内研究会や学会で発表・討論する。</p>
	<p>学問的姿勢</p>	<p>専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。</p>

	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指し、様々な講義を実施する。基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができ
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	毎年度末に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。
	研修施設群と研修プログラム	県立広島病院、国立病院機構呉医療センター、広島市立広島市民病院、広島市立北部医療センター安佐市民病院の各総合病院の精神科は、一般の総合病院精神科において症例数の多い器質性・症状性精神障害、リエゾン・コンサルテーション、気分障害などが経験できると共に、各施設は、摂食障害、重症気分障害、緩和ケアなど特有の専門性を有している。瀬野川病院、三原病院、草津病院の各精神科専門病院は全て精神科救急システムに参画しており、統合失調症の症例数も豊富である。また、選択枠である研修施設はそれぞれ、地域医療、社会復帰支援、老年期精神医療、児童・思春期精神医療、司法精神医療、薬物依存・アルコール症医療、気分障害リワークなどの専門性を有している。
	地域医療について	総合病院では、地域の医療機関と病診・病病連携を体験できる。また精神科専門病院では、地域包括ケア、在宅医療を含む地域包括医療を体験できるプログラムとなっている。
専門研修の評価		3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定める。毎年9月、3月に研修施設群全体で専攻医の研修状況を確認し、評価する。毎年度末および各研修施設での研修修了時には、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ各専攻医の目標達成度を評価し、フィードバックする。毎年度末に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。
修了判定		研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われ、専門研修プログラム管理委員会で修了判定を行う。
	専門研修プログラムの管理委員会の業務	毎年度、9月、3月の2回、各専攻医・指導医の評価と助言を行い、規定年数の研修期間後に修了判定を行う。
	専攻医の就業環境	各施設の労務管理基準に準拠する。

専門研修管理委員会	専門研修プログラムの改善	基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	プログラム統括責任者・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。修了については、規定年数の研修期間後に総括的評価により評価が行われ、専門研修プログラム管理委員会で修了判定を行う。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	個別に相談に応じる。
	研修に対するサイトビジット (訪問調査)	必要に応じて実施する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	岡田剛、淵上学、岡田怜（広島大学病院）町野彰彦（国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター）和田健（広島市立病院機構 広島市立広島市民病院）高畑 紳一（県立広島病院）撰 尚之（広島市立病院機構 広島市立北部医療センター安佐市民病院）小山田 孝裕（特定医療法人 大慈会三原病院）古庄 立弥（医療法人 せのがわ 瀬野川病院）矢田 博己（医療法人社団更生会 草津病院）	
Subspecialty領域との連続性	選択枠である研修施設はそれぞれ、地域医療、社会復帰支援、老年期精神医療、児童・思春期精神医療、司法精神医療、薬物依存・アルコール症医療、気分障害リワークなどの専門性を有している。専攻医は、基本的な精神科の診療技術を体系的に習得できるのみならず、関心の高い専門領域での研修も可能である。	